

## 2010年 研究助成 応募要項

### 応募資格:

- ・国内の大学や公的機関に所属している者(留学生可)
- ・平成 21年 11月 30日現在で 35歳未満の者
- ・所属機関長の推薦を受けられる者(1機関各分野 1名 合計 2名)
- ・2010年(第 26回)日本国際賞授賞対象分野と同じ分野を研究している者(注)
- ・国内の大学や公的機関で、助成対象の研究が継続して可能な者

(注)2010年(第 26回)日本国際賞授賞対象分野(別紙参照)

領域Ⅰ「工業生産・生産技術」

領域Ⅱ「生物生産・生命環境」

(詳細は財団の web [http://www.japanprize.jp/prize\\_categories\\_2010.html](http://www.japanprize.jp/prize_categories_2010.html) をご覧ください)

助成件数:各分野 10件 合計 20件

助成額:1件 100万円 合計 2千万円

助成期間:1年間(平成 22年 1月 1日～12月 31日)

### スケジュール:

募集期間	5月～7月
選考期間	8月～10月
↓	
決定・通知	11月当財団役員会 →ご本人に郵便で通知
↓	
贈呈	12月初旬

### 選考基準:

- ・研究テーマの着眼
- ・独創性
- ・研究テーマの発展性
- ・社会への貢献
- ・分野との整合性

### 提出書類:

「2010年 研究助成 応募申請書」

※7月 31日(金)までにご提出ください。(消印有効)

※申請書は財団所定のフォームをダウンロードしてご使用ください。 [www.japanprize.jp](http://www.japanprize.jp)

※提出書類は紙媒体で出力したものと、CD-R、もしくはDVD-Rに記録したものをご郵送ください。

(申請書は押印する前のデータをメディアに記録し、押印した後の紙媒体を同封してください。申請書類等は返却いたしません。)

#### 助成内定者への依頼事項:

##### ①やさしい科学技術セミナー運営企画書の提出

企画書提出者の中から4名を選び、セミナーを運営していただきます。

基本は受領者の所属機関で開催し、実験や展示などを通じて研究内容を一般的に広く、かつ、できるだけ分かり易く解説し、誰もが科学技術を身近に感じていただくことを目的としています。

なお、セミナー運営で発生する費用等は財団の規定に基づき財団が負担いたします。

##### ②研究助成ブログへの記載

受領者各々のブログを開設いたします。助成期間中、研究の進捗を記載し、最終的には成果報告として纏めていただきます。選考委員と受領者らがコメントを発信しあうことによってコミュニティを構築し、さらにインターネットを通じて研究内容を科学技術に興味を持っている人々に広く知っていただくことを目的としています。

#### 助成金の振込みについて:

①所属機関所定の「寄附申込書」を財団にご郵送ください。財団にて記載し、返信いたします。その後、御機関での審査が終わりましたら振込依頼書を財団宛にご郵送ください。ご指定の口座にお振込みいたします。

②所属機関所定の「振込依頼書」にもとづき、ご指定の口座にお振込みいたします。

※ いずれの場合も振込依頼書は平成22年2月28日迄に財団に必着するようご手配をお願いします。

#### 振込み迄の流れ

①寄附の場合	②寄附以外の場合
寄附申込書(財団宛)	
↓ 財団にて記載	
↓ 所属組織内で審査	
↓ 振込依頼書(財団宛)	↓ 振込依頼書(財団宛)
ご指定の口座に振込み	ご指定の口座に振込み

#### 選考委員会:

学識経験者等からなる選考委員会において厳正に評価します。委員氏名は贈呈式後に公開しますが、選考過程は公開しません。

#### 申請書等書類の送付および問合せ先:

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-22 赤坂ツインタワー東館 13 階  
財団法人 国際科学技術財団 研究助成係  
Tel: 03-5545-0551 Fax: 03-5545-0554 E-mail: info@japanprize.jp  
担当者: 栗山、松本、菊地

ご質問等がございましたらご遠慮なくお問い合わせください。

以上

## 2010年(第26回)日本国際賞授賞対象分野

### 領域Ⅰ(数学系、物理学系、化学系、工学系)

#### 授賞対象分野:「工業生産・生産技術」

##### (背景、選択理由)

産業革命以来、科学技術の飛躍的な発展によって人々の生活水準は著しく向上し、人類史上未曾有の豊かな社会が実現しました。しかし、地球上には、この繁栄から取り残された人々がまだ数多くいます。一方で、科学技術を進めるにも、地球環境への配慮が欠かせなくなってきました。そのような視点を踏まえて、人類の真の繁栄のために、なお一層の生産技術の革新が必要とされています。

##### (対象とする業績)

2010年の日本国際賞は、工業生産・生産技術の分野において、飛躍的な科学技術の進展をもたらし、新しい製品や産業の創造、生産性の向上などを通じて、生活の利便性や安全性の向上、貧困の克服に寄与するなど、社会に大きく貢献する業績を対象とします。

### 領域Ⅱ(生物学系、農学系、医学系)

#### 授賞対象分野:「生物生産・生命環境」

##### (背景、選択理由)

人類の生存は、過去もそして将来も、地球上の生物資源をさまざまな形で利用することなしにありえません。しかし、その生物資源を育む地球の環境は急速に劣化しつつあります。一方、技術革新によって食糧生産は飛躍的に増大しましたが、人口はそれをも超えて爆発的に増えようとしています。環境を守り、生物の多様性を確保するとともに、持続可能な環境保全型の生産が必要とされています。

##### (対象とする業績)

2010年の日本国際賞は、生物生産・生命環境の分野において、飛躍的な科学技術の進展をもたらし、食糧生産の飛躍的増加や生産性向上などを通じて生活の向上や貧困の克服に寄与したり、あるいは、生物多様性の維持や快適な生命環境の実現に寄与するなど、社会に大きく貢献する業績を対象とします。